

World's Window

Vol.83 ネパール・ダサイン

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ

世界の窓



若い嫁の額にティカを付ける老人

こんにちはみなさんアレックスです！私はエベレスト・オブ・アップルズというチャリティーグループのメンバーです。このエベレスト・オブ・アップルズはネパールにあるブラジュワール・スクールの財政援助をしています。私たちは、県内のALT（外国語指導助手）やCIR（国際交流員）たちに対してイベントを行い、募金集めをしています。近いうちにネパールに7万ドルを送る予定です。そこで今回は、ネパールのダサインというお祭りについて紹介したいと思います。

世界の国々の地域や文化を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」！ 案内役は、国際交流員キャサリン・タットネルさんとアレックス・ロザウスキさんです。

ダサインはネパールで一番大切なお祭りで、日本でいえばお正月にあたる儀式です。モンスーンの季節が終るころ（9月下旬～10中旬）から2週間にわたり行われます。ネパールには、ダサインの日に女神ドゥルガーが悪魔と戦い勝利したという伝説があります。その伝説は、戦いの初日から9日間はラーマという神が鬼の王様ラーブアナと戦い、その後、女神ドゥルガーが参



△ラーマの偶像画

戦して勝利しました。

ネパールの人たちはダサインが大好きです。それにはいろいろな理由があります。ダサインは14日間行われるので仕事や学校が休めます。その期間は新しい服を買って身に付け、また、コミュニティーの人たちが町を掃除し寺院の飾りつけをするのでとてもおしゃれな町になります。



子どもが遊ぶ長いブランコ

ダサインの祭り中、子どもたちはみんな凧揚げをします。凧揚げをすることは、「雨を降らせないで」という神様への祈りだと言われています。また、竹製のブランコを作ります。このブランコは6mもの大きさです。同時に大人たちは賭けトランプをします。ネパールでギャンブルは違法ですが、この期間だけは許されています。

ダサインの最初の9日間は、ネパールの国民は女神ドゥルガーを崇拜します。ドゥルガーは命とエネルギーの源だと言われていますので、もしきちんと崇拜したら次の年には幸運がやって来ると言われています。

祭りの初日は、カラーシャ（金の水差し）に大麦の種を植えます。直射日光から保護され聖水を与えて育てられます。この聖なる草はジャマラと言います。ジャマラを育てる祭式は7日目まで続きます。そしてネパールの王様が使用するカラーシャを運ぶパレードも行われます。その移動距離は約170kmにも及び、ネパールの首都カトマンズまでカラーシャを持って行きます。カトマンズでは、数百人もの政府の役人が、伝統的な礼服を着用しカラーシャのパレー

ドが到着するのを待っています。

8日目はマハ・アスタミ（動物を捧げる日）といひます。この日に、ドゥルガーの具現化（血に飢えたカーリー）のために数十万の動物（ハト、水牛、ヤギ、アヒルや鴨）がネパールの寺院に生けにえとして捧げられます。この日の夜をカル・ラトリ（黒い夜）と言ひます。この祭式で血を提供した後、その肉を家に持ち帰り作られた料理は「プラサード」といひます。この料理は小さい葉の皿に盛られ、まず家の神に捧げられ、その後家族のみんで食べられます。



△生けにえとごちそうを兼ね市場からニワトリを買う婦人

9日目はマハ・ナブアミといひ「素晴らしい9日目」という意味です。マハ・ナブアミはダサインの祭式やお祝ひのピークです。この日は、創造性の神「ヴィシュヴァカルマン」を崇拜します。職人、貿易商、機械工などが自分の機材や自動車を崇拜し、動物や鳥類の血を捧げます。このことは仕事が順調に進み、その年の事故を避けると考えられています。



△花やティカで飾ったバス

10日目はダシャミといひます。この日女性たちはご飯、ヨーグルトに朱色を混ぜてティカを作ります。ティカとは額に付ける赤い印のことです。このティカを年長者が若い親類の額に塗ってあげます。この活動は若者の祝福を意味します。ティカの紅色は「家族をつなげる血」のシンボルです。この日、親類は遠いところから集まり、ティカをあげたりもらったりします。ティカの祭式は5日間続けられます。このお祭りは満月の日で終わります。最後の日に人々は自分の家で休みます。その日は蓄財力の女神「ラクシュミー」を崇拜します。

14日間の休みは凄いいと思いませんか？どこに行っても、家族は大切です。家族や親戚の集まりは大切だと思います。親類と会うために14日間のお休みがあればいいですね！